

会津丸

1, 解説

本種は、会津地方で栽培されてきた丸型のナスである。福島県農業誌によると、昭和初期頃から会津若松市の神指及び荒井館の内地区で栽培が定着し、早生の丸ナスとして重用されたとある。

草姿は半開性であり、草丈はあまり高くない。葉は、倒卵形で鋸歯はあまり発達しないのが大きな特徴である。

果実は光沢のあるやや巾着型に近い丸形で、直径8~10cmで収穫される。高温時期に色あせしにくく、ヘタ（蒂）で隠れた果実の表面は全部が白くならならず部分的に着色する。果皮はやや硬く煮食、焼食用に適する。

会津丸ナスの種子を販売している菊地種苗株式会社（会津若松市）の菊地昭司氏によると、以前は立性と開性の系統もあり、それらの中から果実光沢が優れ、半開性のものを選抜したという。これを北会津採種組合（既に解散）が採種し、菊地種苗株式会社を通じ各地に販売していた。現在は会津丸をさらに選抜改良したものを「会陽丸」として販売している（平成17年）。

なお、本品種は福島県園芸試験場（当時）が昭和30年代に育成したF1品種「福丸」の片親である。

2, 写真



生育初期の草姿



着果開始頃の草姿



品種による葉型の違い
 (会津丸は鋸歯がほとんど発達しない)



果実
 (へたで隠された部分が着色する特徴がある)



果実
 (巾着型に近い丸ナス)



生長点付近
 (紫色が濃く、白い毛耳が発達する)



つぼみ

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・会津若松市を中心に主に地元市場への出荷用、自家用として栽培されている。
- ・種子は菊地種苗から「会陽丸」の品種名で販売されている。